

第56回日本小児保健学会 教育講演

チャイルドシート使用100%へ、CPSをご存じですか

服 部 益 治 (兵庫医科大学小児科学)

I. 緒 言

2009年のトピックスは、健康に関しては「新型インフルエンザのパンデミック、そして日本上陸」で、自動車に関しては「高速道路がどこまで行っても1,000円」でしょうか。この2つの話題に関連する健康被害の対策のキーワードは「予防」です。新型に限らずインフルエンザの予防や軽症化は、当然「予防接種(ワクチン)」です。一方、車に関しては、1,000円で安く楽しいドライブも交通事故に巻き込まれると元も子ありませんし、慎重に運転していても他人から災難を受けることもあるでしょう。その時に致命的状況だけは回避したいものですが、その役割にチャイルドシートをはじめとするシートベルトがあります。このように対策があるにもかかわらず、十分に活用されていない国が日本です。今一度「予防」の意義について考えましょう。

II. 事故 (accident) でなく、傷害 (injury) の予防への意識改革

便利な物、新しい物では従来考えられなかった出来事が発生している。例えば、2004年3月に六本木ヒルズの回転扉に6歳の男児が挟まれた死亡事故、2006年8月の埼玉県の市営プールで7歳の女児が吸水口に吸い込まれた死亡事故などはほんの一例で、他にあげれば多数の致死や重症例がある。その時、日本では「親の不注意」、「子どもにも問題」などと片付けられている。それでいいのでしょうか。日本で

は、「事故 (accident)」は不慮の出来事、偶発事件、運が悪いと結論づける。一方、世界では「accident (事故)」は相応しくない用語とし、「injury (傷害)」を推奨している。「傷害」の字は、身体障害の「障害」の字と間違わないように確認しておきます。この「傷害」は予防可能な出来事が前提となっている。世界保健機関 (World Health Organization; WHO) は行動計画の一つとして2006~2015年に「Child and adolescent injury prevention (乳幼児と青少年の事故による傷害の予防)」(図1)を提示しているが、ここでも「injury」を用いています^{1,2)}。日本もグローバルスタンダードの概念にのっとり「事故予防」を「傷害予防」という用語に変え、予知可能、予防可能を原則に傷害予防に努める政府の指針とともに国民全体の認知、そして意識改革が求められる時にあると思います。

III. 子どもと事故

小児救急の約10%が事故(傷害)に関係する。すなわち、溺水・火傷・転落・誤飲・窒息・自動車事故などで、これらは幸い大きな健康被害とならないこともあるが、致死から助かって後遺症を残すものまで種々の転帰がある。TASCのPeterson大使(1992)氏の訴えの「子どもは人生を始めたばかり。だから、傷害によって失うものも誰よりも多い。にもかかわらず、傷害のリスクに一番さらされ、対策の恩恵が一番受けていないのも子どもでもある」は当を得たものである。

日本人の全年齢における三大死因は、悪性新

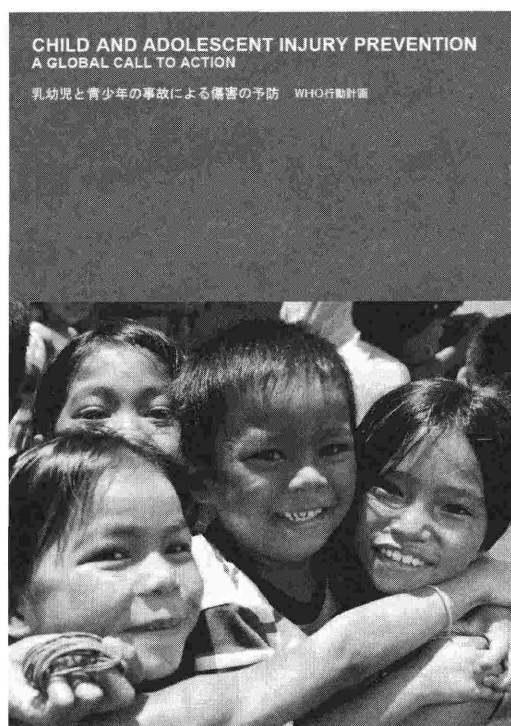


図1 世界保健機関（WHO）の行動計画
(2006～2015年)

生物、心疾患、脳血管疾患であるが、子どもに限ると1歳から14歳までの死因の第1位は、「不慮の事故」である。医療が進歩する前から発展した現在においても約60年間変わらないということは非常に寂しい現実として国民は認識しなければならないのである(表1)。不慮の「事故」は、今後は不慮の「傷害」として認識され、激減されるべきであろう。

IV. 命を守る対策の代表例が「チャイルドシート」と「予防接種」

2000年4月1日からチャイルドシート使用義務が法制化された。すなわち、自動車の運転者

が6歳未満の幼児を自動車に乗車させる場合に幼児用補助装置（チャイルドシート）の使用が義務付けられているが、2009年も使用率は54.8%と半数に過ぎない。また予防接種は95%以上の接種率が社会全体の感染防衛ラインの目標と言われているが、「麻疹輸出国」と世界から邪掄されている日本では、麻疹・風疹混合ワクチン(MRワクチン)の高校3年生(MR4期)の接種率は77.3%である。ともに悲惨な数値で、日本人の予防対策に対する意識の低さの表れと言える。

自動車事故とその予防対策を考えてみましょう。自動車の時速40kmの衝突はビルの5階から落ちるのと同じで体重の30倍の力が加わる。体重10kgの子どもでも膝に乗せていたら300kgの力で飛び出すわけで、これでは愛情いっぱい抱きしめていても守ることはできず、子どもはダッシュボードにたたきつけられるか、もしくは車外へ放り出されて致命的となる。この状態を回避する手立てとしてチャイルドシートやシートベルトがある。2000年から法制化されたチャイルドシート使用義務化であるが、毎年警視庁と社団法人日本自動車連盟(JAF)が共同で行っているチャイルドシート使用状況全国調査³⁾のデータをみても、その使用率は未だ半数前後に留まっている(図2)。また使用されていても、しっかり取り付けていなかったり、背もたれの角度をはじめ座席への取付けが不完全であったり、腰ベルトの通し方および肩ベルト位置が不適切との調査報告がある(図3)。使用率が100%で、かつ正しく使用されることが早急に求められている⁴⁾。

後席の乗員がベルト固定されていないと衝突時に前席の乗員に多大な危険が及ぶデータにより2008年から後部座席ベルトの義務化も法制化された。日本産科婦人科学会の「産婦人科診療

表1 日本人の年齢別死因順位(平成20年度)「国民衛生の動向」より

死因	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
総数	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
0歳	先天奇形等	呼吸障害等	乳児突然死症候群	不慮の事故	出血性障害等
1～4	不慮の事故	先天奇形等	悪性新生物	肺炎	心疾患
5～9	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	先天奇形等	他の新生物
10～14	不慮の事故	悪性新生物	自殺	心疾患	先天奇形等
15～19	自殺	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	先天奇形等

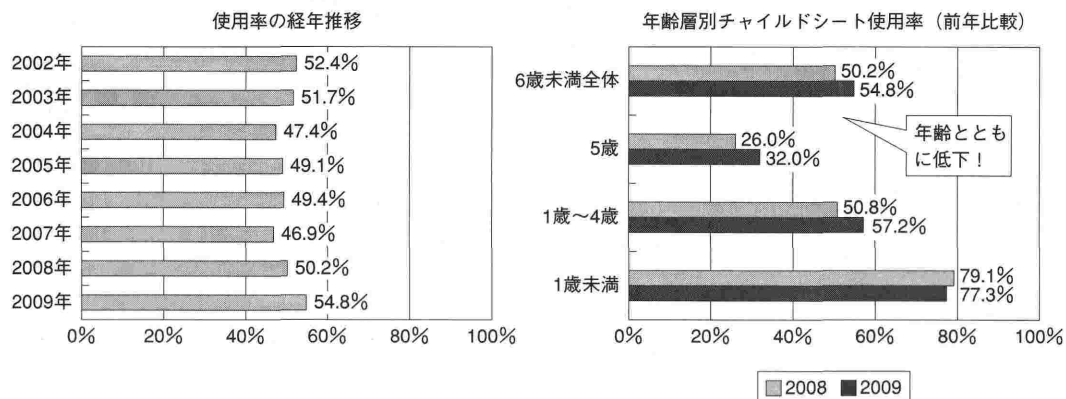


図2 2009年チャイルドシート使用状況（警視庁・JAF 合同調査）

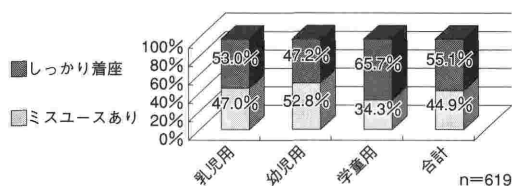


図3 2009年チャイルドシート着座状況調査結果（警視庁・JAF 合同調査）

着座時のミスユースで最も多いケースは、乳児用・幼児用は「ハーネスの締め付け不足」で、学童用は「体格不適合」でした。

ガイドライン「産科編2008」では妊婦のシートベルト装着が推奨され、妊婦さんもシートベルトを着用すべきとなった。これで自動車内では前席も後席も、妊婦さんも含め赤ちゃんから高齢者まで家族全員がベルトで身を守ることに

なった（図4）。

V. Child Passenger Safety (CPS) とは

アメリカでは車内の子どもの死傷率を減らすための概念に、チャイルドシートという物（ハードウェア）の存在のみを考えるのではなく、チャイルドシートという物をいかに正しく活用するかを重視するスタンスがある。この概念を表す言葉が「Child Passenger Safety」（CPS）で、訳すと「乗車中の子どもの安全」となる。乗車中の子どもを車の衝突事故から守るために総合的に考えることが重要なのである^{5, 6)}。

チャイルドシートを使わないと致死率は9.8倍で、2007年の15歳未満の車の衝突による死亡者数は163名であったが、チャイルドシート

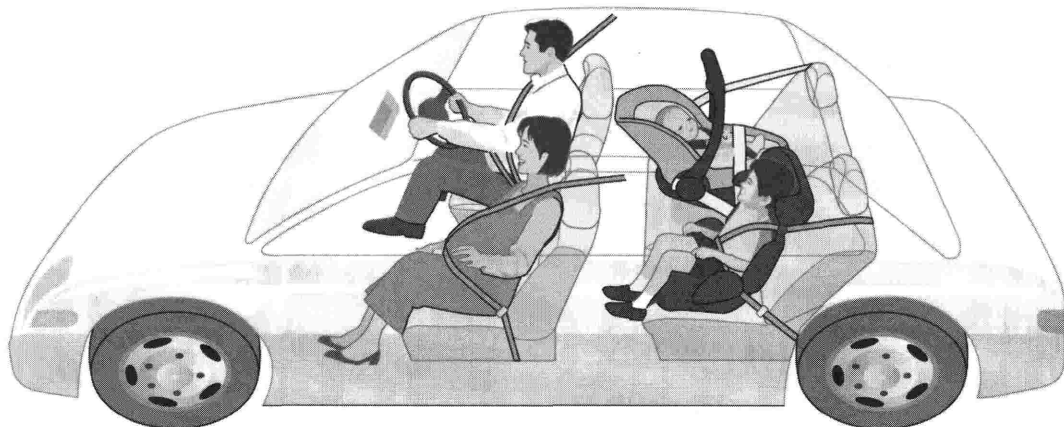


図4 車内の理想像

使用で半分以上が助かっていたと考えられている。「運転席でパパの前が好き」、「自動車内は自由にさせておくで機嫌がよい」、「チャイルドシートを使用するとぐずる」などの理由で大切な子どもの命を見逃すことは許されない。飛行機で「シートベルト指示」を無視すると機外へ出ることを命じられることを思い浮かべ、チャイルドシートに慣れさせる努力とともに乗員は車内ですべて安全ベルトをすることを皆で励行することである。チャイルドシートそしてジュニアシートを正しく100%使用のための声かけ運動をともに行いませんか。

VI. ま と め

1. 事故を運が悪い・仕方ないと済まらずに、事故を傷害という用語に変えて「傷害予防」とし、予知および予防可能なことを前提に行動しましょう。
2. 自動車の乗員は、チャイルドシート・ジュニアシート・シートベルトを、正しく、100%使用しましょう。前席・後席はもちろん、妊娠中の女性方も、赤ちゃんは産院退院時から、乗車中は全員ベルト使用です。
3. チャイルドシートという物を正しく活用するかを重視する概念を表す言葉が「Child

Passenger Safety」で、訳しますと「乗車中の子どもの安全」です。

4. 乗員の命を守り、けがを軽くし、致死を回避することは、加害者にとっても助かることになります。

文 献

- 1) Child and adolescent injury prevention : a global call to action (http://whqlibdoc.who.int/publications/2006/9241593385_eng.pdf).
- 2) Child and adolescent injury prevention : a WHO plan of action (http://whqlibdoc.who.int/publications/2006/9241593385_eng.pdf).
- 3) 警視庁／日本自動車連盟 (JAF) のチャイルドシート使用状況全国調査 (<http://safekids.ne.jp/childseat/pdf/crsdata2009-1.pdf>).
- 4) 服部益治, 堅田泰樹, 土屋千枝, 加藤尚子, 松本芳行, 五十嵐隆. チャイルドシートの正しい着用率アップのために. 小児保健研究 2007 ; 66 : 592-594.
- 5) 服部益治. 小児科医とチャイルドシート—CPSを知っていますか?—. チャイルドヘルス 2009 ; 12 : 16-19.
- 6) 中林ディビッド. What is Child Passenger Safety (CPS). チャイルドヘルス 2009 ; 12 : 39-40.